

中間とりまとめ以降 検討すべき課題（案）

	小委員会及び都市計画部会での各委員の意見等		
	検討テーマ整理時（第 2 回）	中間とりまとめ案検討時（第 4 回）	都市計画部会（H14.12.13.）
1. 総合的な都市交通政策	<ul style="list-style-type: none"> 多様な交通手段が地域で選択されることが必要。 都市交通のレベルオブサービスには公共交通が不可欠。 公共交通、道路交通、マネジメント、交通規制など都市交通に関するすべてを担う第 3 者機関を自治体に作ってはどうか。 土地利用と交通をうまく組み合わせながら、合意形成する仕組みが必要。 事業期間の妥当性も含めた評価を実施して、事業着手することが必要。 専門知識を持つ NPO などを活用すべき。 施策をトータルで考えることが必要。 （遠い将来にできる）架空の道路網整備を基に事業展開していることが問題。 過保護的にならない国と地方の信頼関係が大切。 地方に権限を移譲した総合的な事業が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市や市街地と都市交通を組み合わせる必要がある。 市民参加や NPO を重視すべき。 自動車を排除して公共交通の利用を促進する区域の設定を可能とすべき。 大規模な社会実験を実施して事前に評価することが必要。 社会的な公正性を確認した上で政策実施されることが必要。 住民参加も含めた事業実施のやり方を明解にすべき。 社会的、文化的な持続可能性の観点が必要。 都市規模に応じた都市交通のあり方を検討することが必要。 都市の交通計画について整理すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 合意形成のあり方は重要なポイント。 メンテナンスコストを評価することが必要。 地元が発想したものを国が支援する仕組みが必要。 現場でお金が有効に使える総合的な財源にすることが必要。 総合的な住民参加の場の整備が必要。 事業の優先順位の考え方を整理すべき。

中間とりまとめ以降 検討すべき課題（案）

	小委員会及び都市計画部会での各委員の意見等		
	検討テーマ整理時（第2回）	中間とりまとめ案検討時（第4回）	都市計画部会（H14.12.13.）
2．自転車対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行空間整備、自転車空間整備が重要。 ・ 多量に発生する自転車交通の対策が必要。 ・ 歩行者空間と自転車空間の整理が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もがゆっくり歩ける町が重要 ・ 自転車対策、特に駐輪システムの処理が必要。 ・ 自転車や歩行者優先のまちづくりの手法の充実が必要。 ・ 歩道にLRTや新しいタイプのバスを走行させることを検討すべき。 ・ 既成市街地を考える上で歩行者や自転車を重視すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徒歩、自転車のための空間も含めて多機能空間として、道路を見直すべき。 ・ 特に、自転車の走行空間について検討が必要。 ・ 歩道が十分に整備されていない道路が多いことを踏まえた自転車対策が必要。
3．住宅市街地の空洞化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少下での地方都市の都市機能維持を考えることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「縮小する市街地については、総合的な都市政策の観点も含め、今後その対応方を検討する必要がある。」（中間とりまとめ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縮減した市街地のあり方を検討することが必要（3小委員会共通の課題）。 ・ 丘陵地の新興住宅市街地の今後のあり方（縮減していく）を考えることが必要。 ・ 人口減少下の社会資本整備を検討すべき（単に縮小するべきではない）。

中間とりまとめ以降 検討すべき課題（案）

	小委員会及び都市計画部会での各委員の意見等		
	検討テーマ整理時（第2回）	中間とりまとめ案検討時（第4回）	都市計画部会（H14.12.13.）
4. その他 （小委員会では検討しない）			<ul style="list-style-type: none"> ・電線類の地中化が重要。 ・細街路の廃止等の街区の再編が必要。 ・公益的な問題に対して私権制限を強化すべき。 ・外来者にわかりやすい都市づくりが必要。 ・理想的な道路を提案し、その整備に民間を活用することを検討すべき。